

天神宮

天神宮

この神社は古来、雨乞い天神だった。祭神は菅原道真。

大干ばつにあたっては、安部氏本分3家、近傍14ヶ村の領民は本社に集まり、笛鉦太鼓の囃子で唱歌して雨乞いしたものである。本社は、元は富賀寺の境内神社であったということであるが、創建年代は不明である。

文禄2年(1593年)、寛永2年(1625年)の棟札には雨曳天神とある。享保(1716~1735)から寛政(1789~1800)の間、天満天神となり、それ以後再び雨曳神社となっている。

本社は、このように由緒ある社であるが、維新の際に廃せられ、明治11年(1878年)、据え置き許可となりその時から社号を単に天神社ということになった。

<雨生山の名のおこり>

本社には、古面が2枚あり、干ばつがあるとこの面を出して祈祷し、面に水を注ぐ行事がある。光格天皇(1771~1840)のころの大干ばつに、村人総出で白山(雨生山)の山頂に宝物の二つの面を持ち出し、浜名湖に向けて海神に祈祷すると、一天にわかにかき曇り大あらしとなった。この時、吹いてきた大風に面の一つが吹き飛ばされてしまった。舞い上がった面は浜名湖宇志海岸に流れ着き、土地の人が拾って祭ったのが宇志八幡神社(三ヶ日町)だという。その面は今もその地にあるという。このことがあってから、白山を雨生山と呼ぶようになったという。以来、村人は再び面を持ち出すことはなく、他の1面は今も当社に残っている。

なお、宇志にある2面のあくのじょう悪尉おきな翁の面は静岡県指定の文化財になっている。宇利の天神社に残る面は、柔和な田楽に使うような面で、門外不出のものである。

(参考：八名郡誌，新城文化財案内)

危険！ 危険！

天神社へ上る階段は、とても急です。転落すると大怪我をします。手すりにつかまって、ゆっくり上りましょう。

